

病院と地域をむすぶ



パイプライン



2016年3月号

発行：総合病院 南生協病院

2月実績

一日外来患者数：924.8人 一日入院患者数：295人 紹介患者数：509人
ベッド稼働率：95.6% 救急車：254台 手術数：134件

南生協病院 栄養サポートチームの取り組み

NSTとは、栄養サポートチーム（Nutrition Support Team）の頭文字を取ったものです。職種を越えて、患者様の栄養をみんなで管理しようというのが目的です。

毎日、「自分の必要なカロリーは何カロリーだから、これだけ食べよう」といって栄養を摂取している人は誰もいないと思います。ことさら病気で入院された人は完全に病院任せでしょう。咳の数が増えただけ、熱が出た分だけ余分にカロリーは消費されていきます。病気と闘うだけのエネルギーが必要なのです。しかし「栄養が足りない」などと良く言われますが、この「栄養」の管理、実は簡単なようで最も難しいものです。投与されている点滴のカロリーを計算すると驚くほど少ないことが多々あります。また、カロリー数だけではなく、その内訳、糖分・蛋白・脂肪の各割合を一人一人その患者様用にオーダーメイドする必要があります。普段なにげに食べている食事と同じように栄養を科学的に投与することは非常に大変なことです。しかも何でも知っているかのように見えるお医者さん、実は医学部では栄養に関するきちんとした授業はありませんでした。病気や薬のことは非常に詳しいのですが、残念ながら栄養の知識は乏しいのが現状です。

そこで専門的なことは専門家でということで、管理栄養士の先生や、薬剤師の先生、活動量や嚥下の評価をするリハビリの先生たちでチームを組んで、「一人の患者さんに不足しているものはなにか」「どうすれば食べれるようになるのか」「何から始めればいいのか」など自分の専門知識を持ち寄って、少しでも患者様のプラスになるように提案をしています。

当院でも12年続けてきて、随分浸透してきましたが、まだまだ越えなければならない壁はたくさんあります。でも多くのスタッフに支えられて続けている実感はあります。皆さんももし入院されたら、栄養についてスタッフに相談してみてください。

南生協病院 NST委員会
委員長 長谷川 誠

南生協病院

居宅介護支援事業所のここが大事！

南生協病院居宅介護支援事業所は、どんなに困難なケースでも断りません。他で断られ続けたケースほど、相談連携室と同室にある病院内居宅の強みを活かし、介護保険だけでなく障害者・難病・生活保護施策等あらゆる制度を駆使し、ケアマネジャーばかりでなく医師や看護師やケースワーカー、そして組合員さんの力もお借りしてチームとして関わります。

困難なケースの方は、今までの生活歴の中で理不尽な仕打ちを受けたり、裏切られたりした結果、人間不信に陥り、サービスを拒否するなど様々です。私たちは、そのような背景に目を向け、すぐには変わらないご本人の苛立ちやジレンマに寄り添いながら、今は忘れていたり、見つけきれない本当の『望む暮らし』を一緒に探しだす支援していきます。諦めずに関わります。

南生協病院 居宅介護支援事業所
管理者 渡久地 千絵